

2009年8月11日 現地講演会

## ティルタヤサ大学にて講演会

岡本正明（京都大学東南アジア研究所）

山田勇（京都大学東南アジア研究所）

島上宗子（京都大学地域研究統合情報センター／あいあいネット）

古市剛久（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）

ティルタヤサ大学学長からの要望により、引率教員4名が研究に関わる講演を行なった。ティルタヤサ大学関係者約40名が傍聴した。講演概要以下の通り（講演順）。

### 1. 岡本正明

「東南アジア地域研究の過去と未来」と題して、アメリカにおける東南アジア地域研究の展開と衰退、日本、とりわけ東南アジア研究所における東南アジア地域研究の展開と展望について話をした。日本の場合、自然系研究者が積極的に参加してきたこと、今後は東南アジアで顕著に見られるグローバルな問題を研究するという方向に代わる可能性があることなどを触れた。ティルタヤサ大学には、韓国、台湾、中国など日本以外の東アジア諸国で台頭しつつある東南アジア研究とも積極的に連携していく必要性を訴えた。

### 2. 島上宗子

「協働関係構築のメディアとしての調査」と題し、報告者のこれまでの関与した実践的研究の2事例（ランプン州の大森林公園内でのコミュニティ林業をめぐる調査、ジャワ島のグヌンハリムン・サラック国立公園での社会経済調査）を紹介した。2事例から、調査という行為自体、あるいは調査者の存在自体がしばしば利害対立する関係者間をつなぎ、協働関係構築の端緒となりうる可能性を指摘した。

### 3. 古市剛久

‘Environmental research opportunities in Banten, Indonesia: With implications for research directions’ と題し、フィールドスクール期間での見聞に基づいた研究の可能性を3つ紹介した：（1）海岸浸食、（2）防災（地震、津波）、（3）ジャワサイ保護。特に、これら3つの事例を通して見ることが出来る一般的な研究課題と研究上の留意点を強調した。

### 4. 山田勇

‘Water and Forest: Comparative studies of water resource management from the point of forest conservation in the tropics and other world’ と題し、40年に及ぶ世界各国での森林調査の概要とそこから導き出される森林と人間との関係論、地球環境論を紹介した。また、研究者が心得るべき10か条を紹介しつつ、比較的若く活力あふれるティルタヤサ大学の今後の奮闘を励ました。

（記録：岡本正明、島上宗子、古市剛久）